

# 香川県森連時報

平成17年10月1日発行(年2回)



## 県森連第五十五回通常総会開催

去る五月三十一日、本会二階会議室において、尾崎環境森林部長(香川県知事代理)、松本県議会副議長(県議会議長代理)、柳生香川森林管理事務所上席調整官(香川森林管理事務所長代理)をはじめ多くの来賓の方々のご臨席のもと第五十五回通常総会が開催された。



挨拶の中で、真部会長は、厳しい林業情勢が長期に続く中、環境面から森林の公益性についての重要性が認識され、特に地球温暖化防止について森林整備が期待されている。「京都議定書」の二酸化炭素の削減を確実に確保していくために、是非とも「環境税」の創設実現に努めたい。また、「改革プラン」の実践にむけ県下単一森林組合推進の合併検討会を実施、さらに間伐材の利用促進について県産材利用をかかげ努力した結果、昨年に

比べ多くの間伐材を出荷した」と等を述べた。

十七年度では、まず昨年の台風災害による森林被害の早期復旧、次に県下単一森林組合の実現に向けて取り組み、さらには森林整備をになう中核的な林業技術者の育成を目的に「緑の雇用担い手育成対策事業」を継続して実施する計画であるので、会員各位、国、県、市町並びに関係者の絶大なご理解とご協力、ご支援を願い、議案審議のご協力を依頼した。

続いてご来賓の方々からのご祝辞をいただき、その後、優良作業班員3名、感謝状1名の表彰を行った。

なお、優良組合員表彰、感謝状受賞の方々は次のとおり。(敬称略)

- 優良作業班員  
田中千代美(香川西部森林組合)、末広末数(香川西部森林組合)、岩倉知紀(香川県森林組合連合会)
- 感謝状  
篠畑嘉信(香川県森林組合連合会)

議事については、議長に木村薫香川東部森林組合長が選出され、提出八議案すべて可決承認された。



## 四国四県 森連指導担当者会議

去る七月二十八日(木)、二十九日(金)市内「ロイヤルパークホテル高松アネックス」において、各県森連指導担当者が集まり「四国四県森連指導担当者会議」を開催した。

会議では、各県森連から議題を持ち寄り、混沌とした低迷林業情勢を打開すべく、改革プラン実践、間伐促進対策、森林組合の今後の情勢を熱心に審議した。

## 林業雇用改善セミナー

平成十七年二月十五日(火)本会二階会議室に於いて、県下森林組合、香川県木材協会等関係機関に対し、香川労働局職業安定部職業対策課の山水正博厚生労働事務官を講師に招いて「林業雇用改善について」のセミナーを行った。

## 労働安全衛生研修会

去る平成十七年五月二日(月)、本会二階会議室に於いて、本会横井業務課長、中林労働安全管理者による作業実施にかかわる労働安全衛生に関する講習、並びに高松市消防局より講師を招いて普通救命講習の実施をした。

## 「緑の研修生参加に 関して」

平成十七年度緑の研修生  
小池 伸幸



私は東京からのインターン生です。私の自己紹介もかね「緑の研修生参加に関して」と題して、以下書き綴りました。

私は、東京の下町で生まれ育ちました。町工場が多い、ともあり、子供の頃は、自分も大人になったら工業関連の仕事に「つこう」と思っていました。中学卒業後は理系一筋で機械工学を学び、先生からは「科学技術は世の中を豊かにする」と教えられ、それを実践すべくコンピュータ関連の仕事につき、17年間働いてまいりました。この会社でも「豊かな社会づくり」が企業理念として掲げられていました。入社当時は自分も豊かな社会作りには貢献できると思っていました。しかし、残念ながら「目先の利益が優先され、その企業理念は有名無実なもの」で、企業の利益と今の科学技術が実現している人間の利便性・快適性を優先した豊かな社会が、結果として、環境破壊を繰り返し、さらには高ストレス社会を作り上げてしまっているように思います。

そして、私は、急激に進歩する科学技術の中に身を置いて快適な生活を追い求めることから少し距離を置き、今まで破壊し続けてきた環境を少しも改善したいと思うようになりました。現在の高ストレス社会では、肉体的にも精神的にも病んだ人が多く、その個々が病に苦しむだけでなく、大きな犯罪や事故にまで発展していると思います。勝ち組負け組、差別化等の用語も高ストレス社会を象徴していると思います。

このようなきずきずきとした社会での生活に疑問を抱き、自分はいかにこの社会で生きるべきかを考えるようになり、そこで出た答えが、自然に関係した仕事に就き、破壊された環境を改善するということでした。しかも必要最低限の利益しか追求しない、というものです。しかし、忙しき仕事をしながら、具体的に何をなすべきか探すのは容易ではありません。数年が過ぎ、いままで40歳を過ぎ、このままでは何もできないまま終わってしまう、という焦りから、前の会社を退職し、具体的にやるべきことを探し始めました。インターネットで自然にかかわる仕事をチェックしていたところ、



森林整備の仕事が目を引きました。その中では「地球温暖化」の問題について、京都議定書で日本が6%の温室効果ガス削減義務のうち3.9%を森林吸収によって実現しようとしていることを知りました。さらに、森林作業員の高齢化・人口減少も深刻な問題となっていることも知りました。この森林整備の仕事なら自分の思いを実現できるのではないかと考えた。

その後、森林整備の内容を確認すると、自然の中で作業をし肉体的にも精神的にもよい、こがわり、また、必要以上の利益を追求しない、ということも知り、森林整備の仕事に強く希望するようになりました。

今年1月に東京で開催される「緑の雇用ガイダンス」が今年1月に東京で開催されることを知り参加しました。全国から森林組合連合会が集まり、各都道府県府の状況を説明してくれましたが、中でも親切に対応していただいたのが、香川県森林組合連合会さんでした。私の思いに耳を傾けていただき、また香川県の森林整備の状況や他県との違いを丁寧に説明していただきました。学生時代にも、社会人になっても何回か香川県に行ったことがありましたが、香川県には常々いい印象を受けており、このガイダンス時にもやはり好印象を受けました。

それから、何県か、森林組合連合会の説明会に足を運びましたが、やはり香川県森林組合連合会さんしかないと気持さんが決まり、白一ワークを通じて、香川県森林組合連合会さんの緊急雇用を受け、緑の研修生となることができました。現在は、緑の研修生として、いろいろ失敗を繰り返してありますが、先生方の暖かいご指導を受けながら、歩み前走(つ)しているところです。早く一人前になって森林整備を通じて地球温暖化防止に貢献したいと思っています。

東京から香川県にインターンすることになりました。特に東京での生活に未練はなく、自然が多い環境での生活に憧れていましたので、なにも悩むことはありませんでした。なんといつもうどんが大好きです。寒いところよりも温暖なところが好きです。香川県は私にとって願ってもないところ。残りの人生をここで香川県で有意義に過ごしたいと思えます。最後に、私のようなインターン生を受け入れてくださり、本当にありがとうございます。香川県森林組合連合会さんのお心に添うよう、他の3人の研修生の方々とともに頑張りたいと思います。



森林整備の仕事が目を引きました。その中では「地球温暖化」の問題について、京都議定書で日本が6%の温室効果ガス削減義務のうち3.9%を森林吸収によって実現しようとしていることを知りました。さらに、森林作業員の高齢化・人口減少も深刻な問題となっていることも知りました。この森林整備の仕事なら自分の思いを実現できるのではないかと考えた。

# 森林保護 松くい虫被害対策 について

松林は、せき悪な土壤にも育ち水源涵養・山地災害の防止などの公益的機能だけでなく、景観的にも重要な役割をはたしている。そこで、公益上重要な松林など地域にとって重要な守るべき松林について、薬剤防除を計画的に実施する必要がある。さらに、守るべき松林の周辺で人工造林・天然更新による樹種転換を行い、防除の目的を達成することが必要である。近年、空中散布については、無農薬指向のなかで反対運動が起きており、薬剤防除実施にあたっては地域住民の理解と協力を得るとともに安全面には特に留意して行わなければならない。

このような状況の中で県森連は、香川県発注の平成十七年度松くい虫共同防除地上散布事業を実施しました。散布区域は高松市室山・東石清尾・中石清尾国有林地内で、散布面積は35haを2回散布、実施は、1回目は五月三十日から六月八日・2回目については六月二十日から六月二十九日までの期間で行いました。防除方法については、散布面積が35haと広く、かつ林内の道幅が1.5m程度しかないため散布機材及び調合薬剤（ローリータンク600）を運搬車2台に搭載し、林内に数箇所設置してある水槽から水を取り、スミバイン乳剤



を180倍に希釈して、散布エリア内を移動しながら動力噴霧機を使用し、耐圧ホース約100mを山林内に引き込み、駆けずりながら地上から防除を実施しました。この事業は、作業人員及び機材が多数必要なこと、散布時期が五月末から六月末と気温及び湿度が高く、散布時間が8時から17時と日中の作業のため作業員の体力の消耗が著しく激しく、効率よく作業をするのが難しいこと、散布移動距離が長いため薬剤を調合するための水槽の中継地点が数箇所必要なこと、作業道の路盤に突出した岩石等があり運搬車のゴムローラの消耗が激しいなど困難な作業でありました。が、全員で生懸命がんばり無事終了致しました。

## 平成十七年度四国四県 森連購買担当者会議

平成十七年度四国四県森連購買担当者会議が八月四日、五日の両日、本会2階会議室に於いて、各四県購買担当者、全森連菊池購買担当のご出席を頂き開催されました。

四県担当者の討議、情報交換があったのですが、満場一致で決まったのが四国四県の合同チラシの作成でした。組合員にとってニーズのある商品を選定し、できるだけ安く提供する事により系統購買を推進したいとおもいます。

## 山火事復旧事業その後

今後とも系統購買の発展の為に、ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

丸亀沖の本島においては、平成十四年八月に山火事が発生し、160haの山林を焼失しました。現在、国・県・市・地元の関係者で山火事跡の復旧をすすめており、すでに2年間で約20haの植林が行い、焼失地に緑がよみがえりつつあり、地元の人をはじめ関係者は好意をもって見守っているところがあります。せつかく植林した樹木がすくすくと生育するために

あげます。

現在、下刈作業を行っているところであり、真夏の炎天下の中、現場は山火事ではとんだ木が焼失したため、日陰はほとんど無く、作業員の人は噴き出す汗をものともせず、下刈作業に専念しています。担当としては作業員の人が熱中症にかからないよう水分の補給を充分取ることに気をつけ、お互いがんばって焼失地の緑の復旧を目指しているところがあります。

## 森林国営保険について

昨年、異常猛威をふるった台風で被災した県下植林地に対する森林国営保険罹災調査においては、県指導のもと、単組の協力をえて、昨年十二月から現在に至るまで厳しい条件のもと、査定調査を行っているところであります。

現在のところ、損害発生件数は、124契約、216ヶ所におよび、そのうち香川東部森林組合で51契約、高松市で23契約、香川西部森林組合で40契約、大野原町森林組合で5契約、その他が5契約という内訳になっています。

更に今後、各森林組合及び被災者から罹災発生に係る査定依頼が多数提出される予定であり、台風被害の恐ろしさを感じながら、被災した保険加入者の要望に対し、迅速に応える体制を整えて取り組んでいく決意であります。



## 森林組合系統組織を挙げて 取り組もう人権問題

人権問題の取組に当たっては、女性、子ども、高齢者、障害者、同和問題、アイヌの人々、外国人、HIV感染者等、刑を終えて出所した人などを偏見や差別を除去する等を内容とする国民行動計画の趣旨を踏まえ、それぞれの分野において自らの問題として積極的な役割の発揮に努めること。

特に、同和問題の早期解決は人権問題の重要な柱であることに留意すること。



人権問題の啓発推進に取り組むこととなる基本事項

## チェーンソープロテクター

思い通りに動けるからこそ、安全につながる。



- 強い** 表面生地は耐摩耗性に優れ、生地裏地のフレタンコーティングにより撥水性・防水性（高耐水性）に優れる。
- 軽い** ストッパー生地の独自開発により、軽量化を実現。これにより動きやすく、快適な使用感を追求。
- 安い** チャップスタイプとハーパンツタイプに共通して使用できるストッパー部は、パーツのみの交換が可能のためコスト削減に寄与。

## 明日にふくらむ大きな安心。 森林国営保険

21世紀の 森林経営を サポート

<b>火災</b>  山火事で受けた損害	<b>風害</b>  暴風による幹折れ、横返りなどの損害	<b>水害</b>  豪雨、洪水による埋没、水没などの被害	<b>雪害</b>  大雪積雪による幹折れ、横返りなどの損害
<b>干害</b>  乾燥による枯死などの損害	<b>凍害</b>  凍結、寒風などによる枯死などの損害	<b>潮害</b>  潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害	<b>噴火災</b>  火山噴火による樹幹幹折れ、埋没、横返りなどの損害

お問合せは 森林組合・香川県森林組合連合会・香川県